THE LADIES' JOURNAL OF EDUCATION.

驛遞局認可

明治二十年三月四日

定價金四錢

女學雜誌

第五十二號

每月三回發行

績文舍

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

目録

〔女學叢誌〕矢田部氏の女子教育説に就て●美術論（前號の續）〔坪内雄藏君演述〕●〔中外新報〕數十件●〔學藝一斑〕理學一斑●〔列女傳〕歌妓小万の傳（前號の續）●〔論説〕婦人高等教育論〔米國教育雜誌抄譯〕●〔雜記〕女子教育奬勵會規程幷に趣意書●〔新作物語〕巣守の妻第十五回（春のや主人）●〔家政要報〕ランプ取扱ひの心得●〔御伽草〕嘘ばなし○數學問題幷に答式●〔寄書〕○歌二首○女學校教料の問の答（前號の續き）●〔英語獨修〕ナショナルリードル第一讀本直譯

◎女學叢誌

矢田部氏の女子教育説に就て　稲原逕軒生

去る一月九日に開きたる大日本教育會の常集會に於て矢田部氏は女子の教育といへる題を掲げて演説せらるべしと聞えたれば如何なる説をか述べらるべき疾く知らまほしき事に思ひ居たりしに貴舍幸ひに其筆記を叢誌に載せ既に前號の紙上を以て掲げ終られたれば讀者も亦通讀ありし事ならん左ては其説に就き如何なる感じとか起されけむ余は氏の説を讀み自から感ずる所己が思ふふしと左に述べて以て讀者の參考に供へんとは欲するなり

抑も婦人教育論は屢々叢誌記者の述べたるが如く歐米諸國に於ても其説兩派に分れ甲は婦人に高等の教育を與へ餘りに精神を使はしむる時は身體を損し生兒の發育を害するが故に男子同樣に高尚の學問をなすが如き高等の教育を授くべからずといひ乙は之に相反して女子たりとて男子と共に世に自立し得らるべきの職業あらずんば一家一國の幸福を全うすべからず左れば教育上に於ては男女の區別あるべからずと主張するものなり今氏の説く所は卽ちこの甲説に據れるものと見えたれども此甲乙の兩説を斷ずるにはまづ甲説にいへる高等の教育は男子とば害する所なくして女子に害たるの原因を求めずんば非るなり女子は心と躰と共に男子よりは虚弱なるがゑなりとせば何故に女子は男子よりも虚弱なるかを正さずてやはあるべき斯く虚弱なる所以は女性たる自然天然の特質にして人の力もて如何ともすべからざるものなりとせんか左らば到底女子は男子に及ばざるものにして男尊女卑は天然自然に定まりたるものといはずんばあらざるなり或はまた世の開けざる時代より女の有樣が社會の進化するに隨ひ積習となりて斯く男子よりも虚弱となり來りたらんには教育の上に於て今よりこれを矯め直さんとするの覺悟なくんばあらざるなりその孰れにしても女子の心體ともに男子よりも虚弱にして男子同樣に高等の教育を受くるに堪ふべからざる所以の原因をば正さずして直に女子に高等の教育を授くべからずといひ男子

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

と共に自立して世渡りとなすの途を與へざらんとするは取りも直さず女子をして依然男子の脛噛りたらしめ乃ち男子の奴隷たらしめんとするに外ならず左らば此兩說と決せんには心理生理の學理によりてまづ男女強弱の違ひある原因を求め得ての後ならずんばあらざるなり矢田部氏は學の道に至り深かるは世に聞えて現に大學にありて教育の任に當らるゝ人なり學理に基きてこの原因を求めんは氏にして何の難き事かあるべき然るとたゞ「女子は総て性質虛弱にして男子の比にあらざるが故に年若き時ろの精神の活潑なるに任せて男子同樣に學問を勉強するは大に身躰の發育に害あり好し勉強して醫者などになり格別の害と覺えざるも嫁して母となるに及びては常に身體の思はしからざるか乃至はろの舉けたる小兒の虛弱なるか又は全く子を孕まざる等の事あるは歐米の經驗に據て明かなり」といひて一もその原因に說き及ぼされざりしころ余輩の遺憾とするところなれ(以下次號)

○美術論(前號の續き)

文學士 坪内雄藏君演述
木山 艮筆記

世の中の人は清元は意氣なり團十郎はシブイといへど意氣といひシブイといふ事は如何なる事といふなるやと哲學者に尋ねたらんには團十郎はものをいはざるが故に澁しと荅へん歟左らば啞者は物をいはざるが故に乃ち澁きにやと問はゞ否團十郎は眼の玉太くてキョロ〳〵と睨むが故に澁しとならば拐兒も亦澁からずやといふが如く其意味甚だ明了ならざるべし又清元は何故に意氣にして常盤津は何故に實ある歟それ直接に其物に對し以心傳心に由ずては解し得難かるべし又「サムシィ」「シヅカ」といへど如何なる物をか「寂寥」或は「靜」とはいふなる乎寂寥とは「シーン」としたるにて靜とは物の音のなきをいうなりとのみにては解し難くたゞ寂寥〳〵と幾回繰返しいふも其意を解し得可らず然ると「古池や蛙飛こむ水の音」といへば何となく寂寥き趣きの言葉の外にありてたゞ靜なり〳〵寂寥〳〵と數万を重ねいふも其旨味なかるべきを斯は僅に十七文字もて其意明かなり、其方は吉野に行きたりところと聞け其所の景色は如何にかありけんと問はんにされば東の方に百本許の櫻咲けりと見て又少く西の方に到りて百本許も咲きたるはいと見事なりしと荅へたらんには聊かも面白からざるものと「是は〳〵とばかり花の吉野山」といへば實に左ばかりにも大層なる所なるかと自と其景色の知らるべし又食客とは如何にあるべきいと卑劣なるものにして心の安からぬものなりといひて哲學者の縦横に筆を振ひ十二行廿五字詰三十

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

枚を書きたりとて分明ならざるべきを「ゐさふらふ三杯目にハそつと出し」といはゞ誠に左るべきものなるやと解し得らるべし斯く得もいはれざる趣きをば西洋語にてハアイデヤ乃ち意匠ともいひ心とも精神ともいひ又ハ灸所とも譯すべし此意匠精神灸所ハ哲學者の如何に研究なせバとて解し難かるべきを靜とか寂寥、澁し、意氣なりとかいふハ皆形なき物にして是らを知らんにハ是非とも之を感情に訴へずてハ叶ハす其意氣といふ聲澁しといふ所に就て觀察せずんバ非るなり澁きも意氣なるも亦美しきも必ず世の中にあるものよして其世の中のものを假來りて寫さずんバあらざるなり例バ茲に一人のおぼこ娘ありておぼこの性質を持てれども之を其儘に寫すを以て然りとハなさず兎角他物に掩はれて實際にハおぼこの趣きのよく現れたらず左れば斯るこそおぼこの趣きなれと妙に穿ち出したるぞ小説家美術家の本旨なる然るを實際の儘を持來りて是ぞおぼこなると其趣きのよく知らるゝものならんにハ美術家の出來らずとも可なるべし然るよ其道理を知らぬ人々ハ寫眞こそ美術の目的なれ演劇も實際ぞようる繪を書くも亦寫生ぞ善きといへるハ畢竟世の中よ美術家を亡くし果んと思ふにや左らずば美術の進歩を妨ぐるものなるべし（未完）

◎中外新報

○御還幸啓　去る月の廿五日東京を御發輦あらせ京都へ行幸かせたりし兩陛下ハ御還幸の際に武豊港へ陸路を取らせ玉ひ二月廿三日午後四時十分同港より浪速艦に召させ直ちよ纜を解せて翌廿四日六時三十分とゞす時に海上恙わらせず横濱港に着御わらせ直に御用邸に御上陸わらせて午前八時別仕立の滊車にて新橋停車場に着御わらせ兩陛下の龍顏鳳姿殊に麗はしく見えさせ給ひ同所の樓上よ成らせ御式御服裝とも御發輦の際と異る事なく皇后宮にハ聖上に一歩後れさせて女官がた及び伊藤伯爵夫人扈從なし參らせ樓上に於て暫時御休憩ののち兩陛下御同列にて御順路を九時五十分のころに假皇居へ還幸あらせたるぞいとめでたき

○伊藤伯爵の令孃　にハ今度學術研究のため獨逸國へ赴かるゝよしなるが他の二三貴顯の令孃も同行せらるゝとか

○下田歌子女　華族女學校の學監たる同女ハ此ほど歐洲行を命せられしが何か都合ありて暫時見合せになりしと報知新聞に見えたり

○東京踏舞會　にてハ來月上旬に春季總集會を開きて踏舞

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

を催ほさるゝにつき青木外務次官の夫人と高崎府知事の夫人がその幹事に選擧せられたるよし

○府知事の夜會　高崎府知事及び夫人にハ去る廿二日午後九時より鹿鳴館に於て大夜會を催ほされ來賓の數ハ凡そ千二三百人のよしなるが日々新聞は男子の數多き割にハ婦人の數少なく花樹の葉生ひ茂りて花の少き心地せられたりまた案内狀にハ婦人ハ洋服若くハ白襟紋附とありしにより藝者の出の衣服然たる縮緬紋附の奥樣達が過半數を占めて勝を制したりといへり

○高木兼寛氏の演說　同海軍々醫總監ハ去る九日京都の中學講堂に於て婦女子に對する衞生の演說をせらるゝに付其筋より各戶の婦女子ハ可成參聽そべしとの口達ありたれば午後一時より我後れじと詰掛たる聽衆ハ千百餘人と聞えたりし中六百餘名ハ女子なりき又伊藤伯爵同夫人杉大夫北垣知事同夫人中井知事同夫人尾越書記官夫人ハ何れも洋服にて參聽あり聽衆の婦女子ハ束髮多く中に十四五人の從前の京風なる油のこて附きたる頭の見えたるを高本氏の見て笑ひながらドウか束髮になッて貰ひ度ものなりといはれ扨て演說せられし趣意ハ婦女子の心得べき衞生論より說きて詰り衣服ハ洋裝また運動の爲踏舞となすがよく且つ從前妻女ハ奥樣とて世間の交際もせず家内にばかり居る故に世上の有樣もしらず斯てハ自然つれ添ふ夫の交際も狹くなる譯なれば以後ハ奥樣の稱を改め外樣とでも仕度ものなり斯して世間の交際を廣め夫の事業を助けまた折々御亭主と同道して他出するやうにして健康を補はれたし云々との事なりしよし日々新聞の京都通信に見ゆ

○Times新聞に掲げたる日本女子の敎育　英國のエル、フヰルモール孃といへるが近頃倫敦のTimes新聞に日本の女子敎育の事を寄せたるを見るに妾ハ日本よりの好新聞を得て之を此に報道するハ嬉しき事の限りなり日本の都たる東京に男子の大學校ある事ハ人のよく知れる所なるが同校の敎官中にハ女子の敎育と改良せんが爲に一の大學校を立てんと企つるものありて朝野の紳士にも之を贊成するもの多くまづ東京に於て女子大學校を設立し十二人(甚だ疑ふべし)の寄宿生徒と百名の通學生と敎育せんとの計畫あるよしなるが此紳士達の多くハ嘗て英國にありて物學びせし人々なればよく此國の生活と習慣とを知れる人々なるがゆゑに終に東洋の英國に女子の大學校と創立しろの敎授をば四人の英國貴婦人に托する事とハなりぬ右の發起者ハ皆日本女子の英國敎派に屬して耶蘇敎

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

信者とならん事を望み佛教ハ日本の文明を助くる事能はずと公言せりされば昨年十一月異教國女子教育奬勵會と福音擴張會と聯合の會議を開き前にいへる英國貴婦人の渡航旅費仕度金（一人に付二千二百五十圓）その他の給金を引受け支給する事を決議し彼の大學校と特約を結びたり扨て彼の貴婦人の中既に學の道にも至り深くて才ある貴婦人二名ハ十一月十日過ぐるころ右の委托を承諾ひ其任に當りて大に盡すところあるべしといひ居れり他よりの寄附金もありて右兩會の委員ハ此計畫實施の上ハ尚ほ必要の支給をも引受くべき心構の由原この議を右の會へ出したるハ日本に滯在せる大僧正（本誌記者思ふに神戸なるビショップ、コール氏の事ならんか）及び福音擴張會の僧エー、シー、ショウ氏の手を經て出したるにてこの二氏ハ將來日本に於ける弘教の事ハ此發起者の人々と共にするにありといひ居れる由なりまた此事につき前に記せる會へ寄附金を送らんとするものハウエストミンストルのデヲヘイ街第十九號貴婦人會の榮譽書記へ宛て送らるべしとありたるが此話ハ我が邦に於てハいまだ公けならざる所なれば計畫中の大學校とハ大學教授諸氏及び貴顯達が今度設立あるし彼の女子教育奬勵會の事に似たれどこの會ハ資金廿万圓を募集する筈なりといへば外國の教會にろの補助を仰ぐべきにもあらざるべしと思はる

○東京女子專門學校　今度小石川區諏訪町三十一番地へ東京女子專門學校といふを設立ありし由なるが是ハ英、獨及び數學等の普通學科より始め高等の專門學科を教授する學校なりといふ

○共立女子職業學校　ハ前號に記せしごとく寄宿舍を新築せしよつき更に寄宿生の入學を許せしところ移轉後既に十二名の入學者ありしと聞く

○看護婦の慈惠法　慈惠病院内の看護婦教育所にてハ規則を犯し或ハ器具を破損せしものある時ハその者より罰金を取立之を積みおきて慈善會又ハ教會へ寄附する筈のよし

◎學藝一斑

○理學一斑

〔第廿一節〕重量の意味及び天秤の事　茶、砂糖、香料などの商店にある天秤といふものと見るにその裝置ハ一本の桁ありてその中央を確としたる軸の上におき容易く動かしめて桁の兩端に二個の皿を掛けこの皿空虚あるときハその桁ハ正直に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

地平となる左れど若しその一方に重量ある物をおけバ直ちに一方ハ降りて他の一方ハ昇るやうになしたる仕掛なり今若し空虚の皿を下の方に引くか或ハまた壓すときハその桁再び地平の位置となるべしゆゑに一方の皿にある物の重量愈々重ければ地平の位置に復するために入用の力もまた愈々大なりこれを例へバ一オンスの重量を一方の皿よおく時ハ他の一方の皿をば一本の指にて壓しこれを上の方に上ぐるを得べけれども一ポンドの重量あるものをおく時ハ稍々多くの力を要し十ポンドの物をおく時ハ終に腕の力もて擧ぐべく五十ポンドとなれば益々多くの力を要し百斤の鐵鎚を擧げんにハ非常の力を要してその皿を上げ得べし

空虚なる皿を下の方に壓す事を止めこれに重量ある物体をおくと假定めんにその皿にあるもの〻重量の他の皿にあるものと同じ重量なるときハその桁ハ直に地平となるべしこれを以てその両方の皿ハ地球の中心の方に寄り動くの傾きありて一方と引かざれば他の一方を下ぐる事を得ず之を要するに相互に引くと同一の理由にして両方の引く力相等しければ勿論他の一方を擧ぐるを得ざるべしされどこの中の一方に僅かの力と加ふるときハ他の一方と揭げ得らるべし

◎列女傳

○歌妓小万の傳　（前號の續）

西の空の雲のさわぎもいつしかと晴わたり東のはてなる陸奥函館の波のあらましきも只暫時がほどに和みゆきて世ハいつしかと穏になりぬ橋の名にれふ柳もかつ萌えかつ散みだれ下行く水のたゆみなく移りかはりて七年の春秋ハたゞ夢の間にうち過ぎにけり多久何某ハはやく心を決めて歸順のまことを表し〻に才さへしてく學びのらうあれバ其かたにも重く用ひられてつかへの道に暇なき身とあれるに小万のうへを忘る〻とまハあらねど再びふる草の根と尋ねてとも思ハず物につい紛れてありしに朝夕同じ處に奉仕る人々あまたうち集ひて饗宴するとありけり何處ハあれど家廣く見わたしよきハ柳橋の河長に優る處あらじとて日を定めて夫々の設けす客の限りうち揃ひし比清げに装ひたる歌妓二十人ばかり立出て酒すゝむるに漸く酔ひすゝみて上座なる人も下の方よゑらぎ諾ひ下なりし人も上ざまに座移して物語などし互にかしこまりも置ず乱れたるに此歌妓ども〻此處かしこと入のはりたると多久何某ハ見わたしつ〻斯る場所のならひにて變遷りの疾きハさ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

るとながら知る人顔のからもあとりなく失ぬるハ世の中の昔にかハれるゆゑにもやなど思ひ量られて獨うち背きつゝ欄干に身をよせ河づらを見出しつゝから人の舊時の波とか賦したる事など考へわたす折ふしあど物思ハしげよてハ在すらむ酒まゐり賜ハずやといふ聲の何となう耳とまる心地してふと見返ればありしよりハ少し面痩たれど紛ふべくもあらず花麗やのならぬ小袖も帯も思ひなしにやいと清げに愛たく粧ひたてるハ如何なる人の好ミにやなど嫉うもなつかしうも思ハるれど言にも出さず彼方にも夫と知りつゝ膝おし進め物も得いはずうちまもりたる目に涙さしぐみたると見て早う目をくはせて勿洩らしそとおし止めながら酒杯とりて注すれバ燈影にうちみむきて酌しつゝそと涙おし拭ひてさらぬさまに立ちながらかへり見がちにこと方に行くを此方もさすがに名殘をしう見送れど醉たる人のあやにくに立隔たりて沖の暗きになどだミ聲に叫ゝじり出て踊るにさへられたる遺憾さ白帆ハ見えずとも今ひとめと思へど甲斐なし上だつ人の歸り賜ハぬうちハと肴せゝりながら待遠けに座したるもおり酒も深くハ好まず

家路の遙なるハ近き傍の人にのミ別れを告てそこ〱に退る

もありて稍しろみ渡れるほどと待て立出るにも送りにだに來合せなば心の程とも告知らせて明日あさてにもまたこむ契り結び置のましなど思ひてやをら立てば此方彼方に殘れる限り同じやうに歸るとてひしめけば送るも送らるゝも肩をするバかり入口に立ちてミて物いひ交すべき便宜も得ず何處に居るやらむと心もとなくてさらぬ様に立もとほれば彼方よ物や置忘れ賜ひたる只今たゞとりて參らそべきになど知らぬ人のまめ立ちいひたる心の裡にハ打棄ても置けのしとはしたなく思へどせむすべなし左にも右にも今宵ハ事ゆかじと思ひなりて立出るうしろの方にて近きにまたと口々よいふ聲のうちに夫かと思ふも交れど又今更に如何ハせむ時ハ九月にて晝の間ハ物にまぎれて憂き秋としも思ハざりしよ月影いと隈なくてうち連れたる一二人もこゝのしこに徃別れたる後ハ我影のミともなへる歸るさの常よりも憐れに身にしみて覺えらるゝハ七年の昔の夢と思ひ出ればなるべし小万ハ此世に存命てもあらじと思ひなりし人の斯て有を見し悦びハ物にも似ず嬉しけれど昨日今日此地に歸られしにもあらずハひとたびの訪問ハあるべきにさる事の絶て無りしを思へば早うも放れて只斯おから絶むとの心にやまた家なる人の上あどを耳疾く聞きそそまして疎ましう思ひなり賜へるにや思懸ずめづらしうとさへ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

言はせず目をくはせて制止られしも憚かることありてとは思へどところがらさう包賜はでもあるべきを是はたいと疑はしう,ねたうこそなどさま〳〵に思ひ乱れてものも得いはず甲乙はとく三絃とりて筥屋の男に渡して納めさせつゝ帰る準備すれどさる心もつかず蟬脱の殻のやうにてつい居る肩をそとうち敲きてこはたゞ事には侍らじ多く來集ひ賜へるうちに思ひつきたる人こそ在すべけれ然らば明日ともいはず今帰るさにもおごり賜はずやなど何心なくいふも胸に當るこゝちしてそが〳〵敷は返辞さへしあへずお酌の子が長やかなる扇と手拭におし巻きながら忍びたる聲にてさきやさほどにも思やせぬのにと謡へるさへ嘲らるゝこゝち

百九

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

して身震ひしつゝつと立ちて夜風ハいと冷かになりぬ羽織やもて來りるとりて賜べとてうち着つゝやとら出むとするを怪しう思ふもあるハ道理ぞかし斯て歸りしまたの夜柳町の升田屋より名ざしにて口かけたる 客あり誰にかあるらむ若其人あらば如何ばかりか嬉しからむなど心に思ひて迎への人ようらぞへど絕て知らずとのみいふがいと覺束なゝから常よりも心急ぎのせられて出行きたる後の物語ハいかならむ其ハこの次の卷にてろ記しつけれ

記者白す此挿畫ハ後號に入るべきを引わげてかゝせつれば此處にハ要なきやうなれど下文とあはせて見賜ハゝ自らてとのこゝろ知られぬべし

◎論説

○婦人高等敎育論　米國敎育雜誌抄譯

婦人高等敎育といへる論題ハ嘗てこの雜誌に於ても痛く論じたる事ありまた英國米國の年若き婦人達ハコユーンハム及びガルトン學校ウエレスレー學校スミッス學校ヴアサー學校ハーヴアード、アンチモス學校ろの他改進主義の敎育をなせる我が米國の諸學校の盛援により英米両國に於て熱心ゝ論じたる事なれば業に已に此論題ハ定りたる事ならんと思ひの外近ごろ至り再び此論題と持出すものこそ現はれたりけれそれ乃ちイー、リン、リントン婦人にしてろの議論を評論二週一報といへる雜誌に掲げたりしより我が米國の通俗學藝月報その他の諸雜誌に轉載せり

その議論ハ論法にも叶ずして全く相反し專ら唯物論に基きたる意見なれば今の世に於てハ驚くに堪へたる議論なり一たびこれを讀む時ハ人をして一笑を催はし或ハまた之を輕むせしむるの情なきこと能ハず

論文の初めにいへるにハ何事に就きても婦人論ハいと六ケしき問題の多のる事なるが高等敎育論もまたろの一なり世の中に女子の數ハ男子の數よりも多きがゆゑに自然から女子もまた人に倚らずして世を渡るの必要を生せざるを得ず扨てその自立の道ハ廣くして且つ世に耻る事なき業ならずんばあらず乃ち人の心ならぬ慈恵を受けて生活すべからず世に必要なる事業により世の人の心かふこれに報酬せる事ならずんバあらざるなりといへりこの前提に從ふ時ハ斯く女子の男子より數多のるか爲に自立の必要と生ずとせバ自立の職業中最も善きものを擇びて其身を錯はずんばあらず これ自然の勢ひなり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

と思はざるものなかるべけれどもこの論者のいふ所ハ然らず卽ちその說に曰く女子の敎員となるか記者となるか或ハ醫者となるにあらざれば多くの歲月學校に於て費したる學費ハ空しく消耗せざるを得ず若しその金を以て他の事の資本となしたらんにハ將來に於てその報酬として得るところ少なきにあらざるなりと扨てその章の前に於てまた曰く男子に善良なる敎育を與ふる事ハ啻に一身の生活を立つる基となるのみにあらずして一家族の幸ひを致すの基なるべし左れば男子にしてその子に讓るべき財產なきものハその子に敎育を與ふるの外更に爲すべきの手段あらざるなり實に善良なる敎育を受け且つこれをうくるに足るべき腦力さへあらんにハ何事とか爲し得られざるべきといへり玆に善良なる敎育といへるハ最も實用に適する意味ならんが其敎育の斯くも男子の生活上に必要にして且つ貴重ならんにハ何故に女子にハ世に自立する職業を以て身を鎧ふべき敎育の必要ならざる歟然るも尙は女子にハ必要ならずとハいひ難からん否論者の自らいふ所の說に從ふ時ハ益々然らざるを得ざるなり何となれバ論者自ら曰く男子と女子とを比ぶれバ心體の強弱といひ創造の能力といひ精力の厚薄といひ困苦に堪ふるの忍耐力といひ男子に及バざること遙かなり女子ハ斯く優りたる男子に競爭するものなりといへるが故なり(以下次號)

◎雜記

○女子敎育奬勵會規程幷に趣意書

奬勵會々員たる某氏より女子敎育奬勵會規程幷に趣意書といへる小冊子を寄せられたれば玆よこれを掲載す

吾邦敎育の事之を既往に顧みれバ維新以來實に振起改良せりといふべしされど全体に就きて之を論ずれば缺點と稱すべきもの將なきにあらず女子敎育の振はざるが如きもまた其一なりそれ社會ハ男女の二性よりして成立つものなれば男女互に和合協力して能く相助くるにあらざれば眞の國家の隆盛は期し得べからず蓋し女子に要する所ハ三箇の地位に立つに臨みて各々能く其己と處すべきの點にあり三箇の地位とハ何ぞ其一人の妻と爲る事其二家婦となる事其三母親となる事是なり而して家婦となり母親となりて其己と處するが如きは最も善良なる敎育を受けたる者にあらざれば容易に之を能くし得べからず抑々家婦たる者ハ一家整理の事家內衞生の事家事經濟の事等に於て皆能く之に通曉せずバあるべからずされば女子

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

たる者に教育の欠くべからざるは又疑と容れざるべし殊に女子に教育の必要なるを感ずるものは其子を擧げて母親となるの時にありても兒童の教育ハ學齢に達し學校に入りて修學する頃に至りて初めて始まるものにはあらず胎中に在る時の如きは姑く論せず胎内より出て初めて大氣に觸れ日光を見る時に於て早く既に始まるものなり而して襁褓の中に在る時より學齢に達するまでの間受る所の教育は全く母親の掌中にあるものにて生長の後善良なる人物となると否とは大概此間の教育の良否によりて分るゝものとぞいふべき艸木の最も撓まし易きは其萌蘖の時に在り人の最も移し易きもその幼稚の時にあり學校教育の緊要なるは固より論を俟たずと雖もその幼稚の時母親の膝下にありて善良なる教育を受けたるにあらざる兒童をして一朝忽ち學校の教育を受けしむるハ猶沙礫の上に大廈高樓を建築するが如しとやいはん故に學校教育をして果して其功を奏せしめんとには母親として善良なる教育を授けしむるの人となさゞるべからずかゝれば女子に教育の缺くべからざるは今更言を俟たざるべしされど女子教育の事をもて今日の急務とするの旨趣は全く上に述べたる理由にのみ因れりといふにはあらず諺に曰く釣合は不縁の原と凡そ

男女の配偶ハ智識品格互に相適合するものとこそ選むべけれ若し然らざらんにハ情機投合せざるよりしてその間自然に阻隔の意を生じきたらぞ〱愛意の薄きに至るものなり夫婦の關係此のごときの有様なる時ハ人生の重要なる家居日常の快樂を各々十分に受け得ざるのみならず兒童の教育を始めとして終にハ社會の秩序國家の進歩にまでも諱じき妨碍を生ずべきなり今吾が邦男女關係の有様を観るに明治の今日にありてハ速かに排除すべき彼の男女疎遠夫婦阻隔の陋習のごときハ却つて大に増長せんとする勢あるぞ歎かはしき何故なれば男子の教育ハ日に進歩を加へ月に改良に赴むくも女子の教育ハ依然として舊容を改めず宛も封建時代暗黒世界に棲息するがごとき情態を存するものあるをもて男子の智識思想の増進に從ひて女子の有様と隔絶する事まそ〱遠く随つて所謂釣合を失ふもののいよ〱甚だしくして男女の交際勢ひ疎遠に赴き夫婦の愛情自から非薄に歸するの外なきに至るべければなり社會男女の有様此の如くにしていかでか國家の隆盛とハ望むべきされば今日に於てハ速に女子の教育を振興して男子の教育と駢び馳せ男子の智識思想の増進に相伴ひて常にその釣合を失せざらん事を期すべきなり

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女子教育の今日に急務なるは上に陳述するが如し故に我輩今女子教育奨勵會を設立し廣く內外同感の士女と募り大に女子の教育を振興し將來吾邦の男女をして人生當然享有すべきの福利を完受せしめ兼て社會の秩序國家の進步に裨益あらん事を期す有志の諸君よ冀はくは此擧を贊成し速に本會に同盟して相共に協同輔翼し玉はん事を明治十九年十一月　發起人

女子教育奨勵會規則

第一條(目的)本會の目的は日本の貴婦人に歐米諸國の貴婦人と同等なる佳良の教化及び家事の訓練を受けしむるにあり○第二條(方法)本會は前條の目的を達せんが爲め東京に於て女子高等教育の學館を設立し各地方に於ても同樣の學館の設立を奨勵すべし○第三條(資金)本會の資金は本會より供資證票を發行して所要の金額を募集するものとす○第四條(會員)供資證票の所有を以て何人たりとも本會々員たるの資格を有するものとす但し入會の許否は評議會に於て之を決す○第五條(役員)本會の役員を定むる左のごとし。一會長一名。一副會長若干名。一評議員長一名。一管財委員若干名。一幹事二名以上。一會計委員一名。一評議員十五名。○第六條(會長)會長は評議會に於て推選し本會の事務を總裁するものとす(以下次號)

◎新作物語

○巣守の妻　第十五回　春のや主人

餘りに意外なる新作の樣子に越野は呆れ果て言葉も出ずさういふ情なしでは無い筈なるに如何して其樣に變ッたるぞ其方はあんまりなと眼にいはせて覺えず二三寸進み出れば彼方は忽ちに面を赧らし頭をうなだれて太き息を吐き俄に手を衝きて聲を震はし「慈母君、今更後悔を申しますハも實に汗顏の至で不面目とも不覺とも何とも申樣はございませんが實に今日に至りまして若氣の誤失を悟りましたホンの一朝の浮氣で前後の辨別もなく、殊に慈母君のお許容をも俟ずご存知の如き不都合な女を…實に今更に非を悟りました此頃になりまして漸々五年來の夢が醒めて…あれを娶ります時に於て段々ご敎訓下されたのを漸々思ひ知ッて不面目なお願ひ、慈母君、實に申される事ではございませんがドウカあのお民は只今より斷然離緣したく思ひますから、サア其ご不審はご道理でありますが大抵慈母君のお活眼で彼が不肖な事は勿論頗る不適當な賤い、イヤ今日の私に對して甚だ不似合だと申す事は十分ご承知でございませうが、實は私も歐洲へ參て色々經驗

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

を致しますにつけて、彼地の風俗と観るにつけて、アヽ眞正の夫婦といふものハ是非とも斯なくてハ叶はない譯だ夫に八分の學識があれば妻にも尠くとも六七分位ハ、兎に角相應した學問がなくてハ… 互に相助け相慰め又ハ上等の交際をしたとて夫を毀けない位までにハ妻よも教育がなくてハならぬト段段經驗が重ります毎にア、不所存な事をした實に我ながら若氣とハいへど未來の幸福を種なしにした昔の過失が殘念で堪らず殊に慈母君のご教訓が一々ヒシ〳〵と胸に當り晝ハどうか斯か紛れましても夜分ハいつも〳〵此事が氣になり十二時一時位まで少しも寐られない事もありました… それに此度も歸國しますに就て實ハ酒匂さん（是ハ外國滯在の貴人と見えたり）と同船でしたが彼地に居る頃から其積であッたか始終信切にして呉まして子巳に一昨夜も濵船の中で「おれもガラクタの女兒が多いが如何だ末女を貰ッて呉んか」ト例の磊落な酒匂さんの話、始ハ戯談だと思ひましたが如何して酒匂さんハ大熱心で………

越野ハ先刻より顔色を變へてジッと新作を打守るのみ間投詞も絶て用ひず「其方ハ〳〵」といひたさうに口のみ上下に動かじてありしが此時堪へ兼て「コレ新作イ、エサ本…其方ハ本心で、夫を本心で……其方ハ幾度も代筆でやッた私の此春から送た手紙を、あれをロク〳〵にハ讀ませんか子たとへ學問が出來ないよもせよ手紙も兎に角に眞名交りで書るし文章とひ言葉遣ひ私が教へたからいふでハなけれど如何して此節の生意氣な娘、アノ瀧口の女なんぞより、温良ばかりでも十倍百倍、夫にマア長々の病氣を（覺えずホロリッと涙を落して）近親の女でも親兄弟でも中々及びもない孝行な介抱、夫に此節でハ人品もあがり立振舞から万端の事が苦勞をしただけによく氣が附き…内の菊と始め近所合壁ほめてゐないものハないとの話、昔の心配ハ何處へやら今でハ此越野も鼻が高い今日にも英吉利から歸ればよい早速自慢をして悦ばせうト誰にも話さねどもお肚の中で兼々樂みにしてゐましたに…あんまりといはうか、思ひ懸ない、離縁をしたいとハ何口でいひます先非と悟ッたもすさまじい言條、病はうけたとて此母にハ眼があります、其方ハ非と悟ッた所でなくまだ〳〵改めて迷ッてゐます慾といふ惡魔よ魅られて又ぞろ横道へ氣が曲ッた、イイエ口實ハ聞たうない其方が離縁すれば私が貰ウ、イ、エあのお民ハ家に置ます イヤ〳〵口實ハ……「マアサ慈母君お立腹でハ困る決て慾氣抔でさうやすのでハなけれど實ハ當人から

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

手紙を送ッて是非とも離緣をして呉と申すので夫故私も決心した譯でイ・エ何の爲に慈母君に對して僞言譎詐を申しませう夫に只今も仰言ッたが此春以來のお手紙とやらに如何いふ文言がありました乃薩張私には解し兼ます恰ど二月程以前の手紙に初めて慈母君のご大病の次第并に夫迄のご變動の樣子も細々認めて送しました故、夫に當人のふの別段の手紙で是非とも離緣して貰はねバならぬ且は慈母君もご大病の事故是非とも一旦は歸る樣にと呉々當人から申し送りました故漸くご重病の仔細を知り狼狽て幸ひの便船にて此度歸國致すやうな譯で……「夫は又變な事だ成程此母の重病の事は決して重さうに書ぬが可いと故意と大

百十五

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

概に書せては置たが彼が學問のあがッた事や色々孝行にして呉る事は私が口づから文句を拵へ偶には其儘に書せた事もあッたに「いかにも昨年の春頃までは左樣なお手紙もございましたが「夫では若や了見があッて故意書かへて送ッたのではないか、シテマア當人からの手紙といふは……

これでございますと取りいだすを越野が不審げに手に取りて見れば常とは異りたる拙き書風

そへ筆ながら申上まゐらせ候私事もつく〴〵と思案いたしましたが提燈に釣鐘とやらで貴君とはどうしても釣合ない身だとさとりましたからどうぞ今までの事はお忘れ下されご離緣なされしやう呉々も願上まゐらせ候母上さまも色々其邊の事ご心配なすッてどうぞ貴方さまに嫌はれぬやうにと段々と御親切に手習學問もおをしへ下されましたけれどどうせ附やきばとやらで出來ませんからやつぱり正眞に申しますが今までの手紙はみんな内々で餘所の人を頼んで書いて貰ッたのが多いんです貴方さまのお歸の上でさつそく御離緣ねがひますあら〳〵かしこ

月　日　たみ方

新作さま

旦那さま

旦那さまと書きて塗消したる杯全く自筆らしく思はせたる書振扱は發明なる心よりして全く新作にあかれたりと悟りて早く新作に安心させ又二ッには此越野に苦勞をさせまいとのお民の孝心とくより斯しやうと決心して此春このかたの手紙とも書換新作に未練を殘させぬ樣奇麗に薩張と手を斷らト、エエモウ可哀相にいぢらしい、あんな罪のない顏して居て此樣に苦勞して居ますかいの、何も其方だとて私の子だ、ヨモヤ夫程には不人情ではなからうナ、エ、新作、コレサ新作、是でもアノ其方は離緣しまそのイ、エゥじれッたい不孝者めが何ぶと薩張と解らないト、エーモウ是程に憫然しい兒を、…エ…成程さういへば私が惡い一個で合點して泣てゐるから成程其方には解らないが道理、實は斯々で斯々で

トお民が近年の變化は勿論學問の上達し事人品の立優りし事殊に病中に孝行なりし事杯賤の小手卷繰返し〳〵泣つ口說つして物語れば新作も始めて大に悟りて扨はさういふ氣であッたるかさうとは知らず察しの如くお民が第一に厭しさに幾らの母さへも忘れしやうになりて久しく旅の空を漂泊ありき歸國なす事を嫌ひたりしが今更思ひ見れば耻しさよ母には不孝、妻には不義、面目なしとさし俯き覺えず淚バラ〳〵

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

次の一間に先刻より立聽くお民も堪へかねて嬉し涙に打曇るヨ、とばかりの哭聲を早くも悟る越野と新作(越)そこにゐるのハ(新)エ、お民かとたゞ一言轉ぶが如く走り出て背を撫でさすり言葉はなし　めでたし〱　(大尾)

◎家政要報

○ランプ取扱ひの心得　前にも説きたる如く油入の中の石油が割合に少く隨て空氣の所多き時ハ石油多くて空氣の入るべき所少なき時よりも破烈の勢ひ大なるべし又餘り心を下げ過たる杯の爲極下の方にて燃え居る時ハ金具或ハ油入の熱そる事甚だしきが爲爆發性たる蒸氣の出方も多く且ツ前に説きたる冷風の作用も烈しかるべし實驗によるに引火點の高き石油と用ひざるランプハ割合に輕く且つ蒸發し易き石油を用ひたるものよりも熱せらるゝ事烈しとすこれ前種のものにてハ燃燒にて生ずる熱度甚だ高く且つランプ心の油を吸上る事遲きが故なりされバ安泰を得んにハ單に引火點の高き石油のみに安せずして却て引火點の低き油と用る方優れり(次出)

○白米小賣相場　本月十八日改正一圓に付)一等)一斗三升六合(二等)一斗四升三合(三等)一斗四升八合(四等)一斗五升七合(五等)一斗六升三合なり

◎御伽草

○噓バなし

一人の女が心易き男に向ひ「妾ハチ此間燒鳥(西洋料理)になしたる鳥が二羽空を飛むで居るのを見ましたがその頭ハ雲の上に屆き尾ハ地に支へて居ましたヨ(男)私も昨日隅田川で鐵砧を挽臼が流れて居るのを見ました(女)さうでございますかアノ今年の冬妾の池で子氷の上に蝦蟆が坐ッて居て石を食ッて居ましたヨ(男)へヱー先達三四人連で兎獵に出掛たものがございましたが其一人ハ聾で一人ハ盲目一人ハ啞者で今一人ハ蹇者でございました此四人が如何して兎を捕りましたらうか話しませうか(女)何卒(男)ぢやアお咄しします、まづ聾ハ音を聞附け盲者が兎を見附て啞者が蹇人に話をすると蹇が駈出して捕へました、夫からまた先達ある人ハ陸上で船を駛らし度といふので帆を一ぱいに揚げましたスルと順風が吹て來て武藏野の原といふ廣い所を滊車よりも早く駛りましたが是から山へ乘り上げ度と心配しましたけれど山の中程で風が變ッて登る事が出來ませんでした(女)へヱマア」と互に談を聞たりしが咄ハ噓なるも世の中よハ斯る實事多あり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○數學問題(答ハ三月十日まで)

或る學校の敎師優等の生徒に筆六十本と半紙五十狀とを分與せしに筆四本と紙一狀とと餘せり優等生何人なるや

○あて物の題(同上)

此歌ハ如何なる國へ如何なる女がまかりける時如何なる男に讀て遣ハしける歌あるやお當て下されうし(繁のや主人出題)

朝なけに見へきゝこそし賴ねハ思ひたちぬる草まくらかな

○前々號數學問題の答式

11＋10:39＋12＝11:x　x12＝　夫
〃　〃　〃　＝10:x　x12＝　婦　答夫廿一歳　婦十八歳

(答者)東京三田牧野のう女、中村かね子、淡路仁井萬平、伊勢內田齋次郎、仙臺大塚堤梅、埼玉齊藤えゆん、横須賀婦根みよ

○前々號考へもの〻答

甲(北畠顯家)答廿八の中皆當らず

乙TEN(六線を引去りたる殘九線にて上の如く組立れバ十乃ちテンを得るなり) 答者一人もなし

◎寄書

○名所霞　伊勢　內田守重

筑波山積りし雪の消えそえて春のかすみハたなびきにけり」

春々しと明石の浦へいてゝれハ淡路嶋まてかすみたなひく」

○女學校敎科の問の答(前號の續き)

(東洋英和女學校規則綱領)當校ハ彝倫道德を本とし和漢學英學算術幾何代數地理歷史譜學の諸學科及び唱歌ピアノー歐米禮節裁縫毛糸細工の如き美術と敎授し優良なる貴女と養成そると目的とす○在學期豫科三年本科五年とす〇豫科一年級ハ修身(口授)讀書(脩身小學讀本)作文(日用文)習字(階書)筭術(加減乘除)地理(新撰地理小誌)圖畫(直線及其單形)博物(通常動物名稱部分効用)裁縫、英學(リードル)唱歌(口授)體操同二年ハ修身(口授)讀書(和文讀本皇朝史略)作文(日用文)習字(楷書行書)筭術(分數)地理(新選地理小誌)圖畫(曲線及び其單線)博物(通常植物名稱部分効用)裁縫、英學(リードル)唱歌(口授)躰操、同三年ハ修身(口授)讀書(和文讀本皇朝史略)作文(日用文)習字(楷書行書)算術(分數)歷史(日本略史)圖畫(通常器具)博物(學校用物理書)裁縫、英學(リードル)唱歌(口授)體操○本科一年級ハ修身(口授)讀書(近古史談)作文(日用文)習字(行書)算術(小數諸等利足)地理(中地理書)圖畫(器具花葉)裁縫、英學(リードル)英習字、唱歌、體操、同二年ハ修身(口授)讀書(和文典日本外史)作文(記事文)習字(行書草書)算術(諸比例乘法開法)地理(中地理書)圖畫(動植物)理學(物理全誌)裁縫、英學(リードル)暗記(讀本の內を書取ふしむ)會話、英習字、唱歌、體操、同三年ハ修身(口授)讀書(和文軌範十八史略)作文(記事文)習字(行書草書)筭術(級數線及面側法代數學)理學(物理全誌)化學(ロスコ化學書)裁縫、英學(リードル)會話、暗記(讀本の內と書取ふむ者)文法(スヰントン文法書)英作文、唱歌、英習字、體操、同四年ハ修身(口授)讀書(本朝文

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

範)作文(論說體)算術(整數方程式幾何學)動物學(普通動物學)生理學(弗氏生理學)裁縫、英學(リードル)會話、暗記(前期に同じ)英作文、英歷史(万國史)同習字、唱歌、體操、同五年級ハ修身(口授)讀書(文章軌範春秋左氏傳)作文(論說體)算術(幾何學)植物學(普通植物學)生理學(弗氏生理學)經濟學(家政經濟)英學(リードル)會話、文法修辭、暗記ハ(前期に同じ)英作文、英歷史、唱歌、體操○試業規則、試業を分て入學定期月次の三種とす入學試業ハ入學の際試驗し合格の學級に編入す定期試業ハ二月七月の兩度に月次試業ハ月末に執行するものとす一學科の試驗點ハ百點を優等點とし全學科の點數の三分二を得たるものハ及第すると得べし但し月次試驗ハ其優劣に依り席順を進退するものとす○起業修業時限ハ毎日五時半とし午前八時三十分に始め午後三時三十分に終る○休業日ハ日曜日土曜日大祭祝日夏季七月十日より九月十日まで冬季十二月廿五日より一月六日まで定期試驗休二月十六日より同月廿二日までとす○入學退學規則ハ生徒入學ハ毎年一月四月九月の三期と定むれとも欠員ある時ハ其時々入學を許す入學と願ふものハ保證書を出すべし保證人ハ丁年以上にして東京に住居し一戶の主たる者に限るまた生徒疾病その他の事故あつて退學を願ふ時ハ保證人の申出に依て許すといへども二週間以前にその旨を申出つるにあらざればその月全額の學資と領收するものとす○寄宿舍規則ハ㊀校則に揭げさる條目を守るハ勿論諸事幹事の指揮を受くべし㊁晨起就寢喫飯浴湯等ハ堅くその時限を守るべし、但し時限ハ日の長短に拘はらず左のごとく定む(晨起)ハ午前六時(就寢)ハ午後九時とす但し十三歲以下の者ハ午後八時三十分を就寢時限とす

(以下次號)

◎英語獨修

○ナショナルリードル第一讀本直譯

〔第一篇第一節〕㊀夫ハ㊁犬デ㊂ある

〔第二節〕㊀小兒㊁而して㊂犬ヲ㊃見ヨ●㊀小兒ト㊁而して㊂犬ガ㊃走る

〔第三節〕㊀是ハ㊃大なる㊂鼠ト㊁ある●㊀犬ハ㊁鼠ヲ㊂得㊃能ふ(歟)●㊀犬ハ㊁鼠ヲ㊂得㊃能ふ

NEW NATIONAL FIST READER.

PAST I. LESSON I.

It is a dog.
㊀ ㊁ ㊂

LESSON II.

See the boy and the dog.
㊃ ㊀ ㊁ ㊂

The boy and the dog run.
㊀ ㊁ ㊂ ㊃

LESSON III.

This is a big rat.
㊀ ㊃ ㊁ ㊂

Can the dog get the rat ?
㊃ ㊀ ㊂ ㊁

The dog can get the rat.
㊀ ㊃ ㊂ ㊁

Black stones never grow white.
① ② ⑥③ ⑤ ④

黑き石ハ白くなる氣遣ひなし

百十九

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

驛遞局認可

女生徒募集廣告

今回當會ニ於テ歐洲婦人三名幷ニ本邦女教師數名ヲ聘シ和洋男女服裁縫編物其他婦女必要ノ諸技術學科ヲ敎授ス就テハ今回女生徒五十名限リ募集ス有志ノ婦女ハ至急來會セラレヨ

京橋區山下町十四番地

女工練習會

束髪用具廣告

束髪用留針(ヘイヤピン)　同鼈甲製　ヘイヤペン　コロチルス

西洋櫛(コーム)　丸櫛　網　品々　リボン品々　花

メジルシ

弊家ノ南鄰ニみすや卜申同名ノ針屋有之候得共右ノ物品販賣不仕候間彼ノ店ニ御出相成候共御用相辨シ不申候ニ付上ノ印ノ目標ヲ以テ弊店へ御尋被下度此段爲念申上置候也

東京京橋區銀座壹丁目

中村利吉

米國ケレー氏著○女學雜誌主筆嚴本善治君譯

女之未來

定價金參拾錢

近頃婦人の事我社會の大問題となれり此書ハ廣く各國の事情を探り彼の未開社會に於ける女の有樣より漸く文明諸國の現狀に移り遂に今後女の位置如何に進步すべきやを判斷せしものなり

東京神田雉子町

輿論社

○繪入女學新聞

每月三回壹部金貳錢十部前金拾八錢府外ハ郵税申請候

第四號去廿五日既發ツ見本御入用之諸君郵券三錢送付アレ方今天下ノ諸雜誌多クハ單ニ男生ニ稗益スル者ニ止リ女學ヲ益スル殆ント一二ノ叢誌ニ止ルノミ本館夙ニ茲ニ感アリテ今般女學ニ適スル一新聞ヲ發行セリ記事ハ主トシテ女流ノ手ニ成ル書牘詩文歌論說飜譯烈女孝女ノ傳寄書雜報總テ女子ニ關シ稗益スヘキ事及ヒ廣告等ヲ採錄シ勉メテ女學者流ヲシテ遺憾ナカラシメ益々共ニ國家ノ爲ニ盡サントス大方ノ諸君愛觀アラハ幸甚々

神田區五軒町

郁文館

四森武城編輯

生徒必携

作文獨稽古

韻頭いろは分字類

精刻木版　全一冊　定價金廿二錢

郵税半額四錢郵券代用す

全生徒必携

作文獨稽古續編

願頭証書及ひ諸願屆書式

前同斷

京橋區南鍋町貳丁目拾壹番地

賣捌所　積文舍

本誌代價表

冊數	正價	此郵税
壹冊	正價金四錢	此郵税壹錢
拾冊	同金三拾八錢	同　拾錢
二拾冊	同金七拾五錢	同　二拾錢
三拾冊	同金壹圓拾錢	同　三拾錢
四拾冊	同金壹圓四拾錢	同　四拾錢

但シ東京十五區內郵税不申請

本舍は御注文有之と雖とも前金御送附無之間ハ雜誌配達不仕事に相定候に付御注文の節ハ必す代價郵税共郵便爲替又ハ郵便にて御送附あらんことを希ふ●郵券代用ハ壹錢切手にて一割增し●郵便爲替ハ芝區芝口郵便局へ御振込み其爲替券本舍へ御送附可被下候　但し東京十五區內ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

發行所

東京々橋區南鍋町貳丁目拾壹番地

積文舍

持主兼印刷人　松本義弘

編輯人　初鹿野鉼五郎

大賣捌

東京芝區愛宕町一丁目三番地　修正堂

同　神田區淡路町　嚴々堂

同　神田區佐柄木町一番地　東海堂

大坂備後町四丁目　同　岡嶋文店

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY